

開催主旨

災害時にボランティア活動はなくてはならないものとなっています。また、被害を軽減するためのボランティア活動も各地で広がりを見せています。

第3回国連防災世界会議のパブリック・フォーラムとして、防災ボランティア活動の実践と歩みを学び、これからの展望・未来について、参加者が相互に交流し、みんなで話し合う機会にします。

プログラム

以下、敬称略・順不同

14:00 -	開会 ・内閣府挨拶 ・メッセージ 丸谷 浩明 (東北大学 災害科学国際研究所 教授)
14:15 -	パネルディスカッション 『防災ボランティア活動の実践と歩みを学ぶ』 ・コーディネーター 鍵屋 一 (法政大学大学院非常勤講師 / 特定非営利活動法人 東京いのちのポータルサイト 理事) ・コメンテーター 菅 磨志保 (関西大学 社会安全学部 准教授) ・パネリスト 河田 のどか (特定非営利活動法人 さくらネット 防災・減災教育推進課長) 阿部 巧 (公益社団法人中越防災安全推進機構 復興デザインセンター チーフコーディネーター) 門馬 優 (特定非営利活動法人 TEDIC 代表理事) 今村 恵美 (特定非営利活動法人 法人カリタス 釜石 事務局長)
15:50 -	ワークショップ 『防災ボランティア活動の未来を描く』 ワールドカフェ形式で「防災ボランティア活動の未来」をテーマに参加者同士で話し合います。 ・コメンテーター 松田 曜子 (関西学院大学 災害復興制度研究所 特任准教授)
17:30 -	全体での共有
18:00	閉会

お問い合わせ



防災とボランティアのつどい事務局
(株式会社ダイナックス都市環境研究所)

www.bousai-vol.go.jp/

防災ボランティア 検索

〒105-0003
東京都港区西新橋 2-11-5TKK西新橋ビル3F

TEL 03-3580-8221

FAX 03-3580-8265

E-mail tsudoit@bousai-vol.jp



第3回国連防災世界会議パブリック・フォーラム



防災とボランティアのつどい

～学べる、つながる、みんなで考える～



プログラム

主催

内閣府(防災担当)

後援

東北大学 災害科学国際研究所

日時

平成 27 年 3 月 15 日 (日) 14:00~18:00

会場

仙台市シルバーセンター第1研修室

宮城県仙台市青葉区花京院 1 丁目 3 番 2 号

開会

以下、敬称略、順不同

【メッセージ】

丸谷 浩明 東北大学 災害科学国際研究所 教授

(まるや・ひろあき)東京大学経済学部卒、1983年建設省入省後、国土交通省労働資材対策室長、内閣府防災担当企画官、京都大学経済研究所教授、(財)建設経済研究所研究理事、内閣府防災担当参事官、国土交通省国土交通政策研究所政策研究官を経て、2013年10月より現職。

内閣府「事業継続計画策定促進方策に関する検討会」委員、内閣府「防災ボランティア活動検討会」有識者メンバー等の政府委員会委員、(特定非営利活動法人)事業継続推進機構副理事長。

パネルディスカッション 『防災ボランティア活動の実践と歩みを学ぶ』

【コーディネーター】

鍵屋 一 法政大学大学院非常勤講師 / 特定非営利活動法人 東京いのちのポータルサイト 理事

(かぎや・はじめ)1983年早稲田大学法学部卒業、板橋区役所入所。法政大学大学院政治学専攻修士過程修了。2006年から法政大学大学院非常勤講師。板橋区総務部防災課長、区福祉部板橋福祉事務所長などを経て、現在は区議会事務局長。2002年、東京いのちのポータルサイト設立時から関わり、日本耐震グランプリなどの事業に関わる。内閣府青少年等に向けた防災教育プログラム検討委員会委員、総務省消防庁地震災害応急対応マニュアルのあり方等に関する研究委員、総務省消防庁地方公共団体の地域防災力・危機管理対応力評価指針作成検討会委員、内閣府・災害時要援護者の福祉と防災との連携に関する検討会委員など歴任。

【コメンテーター】

菅 磨志保 関西大学 社会安全学部 准教授

(すが・ましほ)1996年、東京都立大学(現・首都大学東京)大学院修士課程在学中に発生した阪神・淡路大震災を契機に、災害研究や市民活動に関わる。1997年から、東京都社会福祉協議会・東京ボランティア・市民活動センター専門員 を経て、2002年より、人と防災未来センターの専任研究員として災害調査・被災自治体支援、防災研究、人材育成事業などに従事。2005年から大阪大学コミュニケーションデザイン・センターの特任教員として、減災に関わる市民活動、コミュニケーション問題に関する研究・教育活動に従事。2010年から現職。専門は災害社会学、市民活動論。著書に『震災ボランティアの社会学』(ミネルヴァ書房、2002年、共著書)、『災害ボランティア論入門』(弘文堂、2008年、共編著書)など。

【パネリスト】

河田 のどか 特定非営利活動法人 さくらネット 防災・減災教育推進課長

(かわた・のどか)1987年、兵庫県神戸市須磨区に生まれる。7歳のときに自宅で阪神・淡路大震災に遭う。その後、防災を専門的に学べる兵庫県立舞子高等学校環境防災科に進学。備えていれば守れた命があった事実を知り、ユース震災語り部の活動を開始。神戸市内の大学に在学中は、防災教育を専攻し教材開発や出前授業を実施。防災関連のボランティア団体の立ち上げ・運営に関わる。新潟中越地震、台風23号水害、四川大地震等、国内外のボランティア活動に取り組んだ。2010年4月より「NPO 法人さくらネット」に勤務。防災教育の推進に取り組む。東日本大震災後は学生ボラバスの運行、全国の学生が被災地ボランティアに参加する仕組みづくり「いわてGINGA－NETプロジェクト」に主催団体として参加。また、平成23年度より、兵庫県・毎日新聞・人と防災未来センター主催の“1.17防災未来賞「ぼうさい甲子園」”の事務局を担う。

阿部 巧 公益社団法人 中越防災安全推進機構 復興デザインセンター チーフコーディネーター

(あべ・たくみ)新潟県長岡市在住。2004年新潟県中越地震の際に、復興活動の中間支援組織「中越復興市民会議」の設立に参加、以後コーディネーターとして被災集落の復興支援に取り組む。2008年より現職となり、復興支援・中山間地域支援のコーディネーターの育成事業等に取り組む。また平成24年4月よりNPO法人市民協働ネットワーク長岡事務局次長として、ながおか市民協働センターの運営を担う。また私生活では2013年に、復興支援で付き合いのあった長岡市川口地域(旧川口町)に住居を移し、川口の山・川遊びから地域資源を活かした生業づくりに取り組む「yamakawa_sun」を立ち上げ、山暮らしを楽しんでいる。

門馬 優 特定非営利活動法人TEDIC 代表理事

(もんま・ゆう)平成元年 3月 1日生まれ、宮城県石巻市出身。早稲田大学大学院教職研究科修士課程卒。学生時代に認定 NPO 法人カタリバに 3 年間コミットし、東日本大震災での緊急支援(通称:つなプロ)を経て、大学院在学中に2011年5月にTEDICを設立(2014年9月にNPO法人化)。現在は、石巻市内において不登校、生活困窮世帯の子ども・若者支援にあたる。2013年6月より石巻専修大学共創研究センター特別研究員、2015年1月より子どもの権利条約フォーラム 2015 in 石巻 事務局長に就任する。JVCA 認定ボランティアコーディネーション検定 1 級。中・高等学校公民科・地理歴史科専任教員免許状所持。宮城県教育委員会認定子育てサポーター。

今村 恵美 特定非営利活動法人 カリタス釜石 事務局長

(いまむら・えみ)仙台市出身。高校卒業後、ゴルフ倶楽部キャディとして勤務したが、1年余りで退職。フリーターを経験し、その後、ゴルフメーカーに販売員として勤める。東日本大震災発災当時、仙台港近くにある店舗に勤務していたため近くの学校に避難することになった。店舗は津波の影響により休業状態となり、再開されるまでの時間を利用して釜石市のボランティア活動に参加。2011年4月27日から1ヵ月以上活動をしたことがきっかけで、継続して釜石市の支援に関わるようになった。2011年10月1日、前職を退職し、仙台教区サポートセンターカリタス釜石ベースのスタッフとして勤務。2013年3月19日に法人化し、NPO法人カリタス釜石のスタッフへ。現在は、サロン活動、ボランティア派遣、コミュニティの形成、生きがいづくりなどの活動に従事している。

ワークショップ 『防災ボランティア活動の未来を描く』

【コメンテーター】

松田 曜子 関西学院大学 災害復興制度研究所 特任准教授

(まつだ・ようこ)関西学院大学災害復興制度研究所研究員・特任准教授。2007年京都大学大学院工学研究科博士後期課程修了。博士(工学)。特定非営利活動法人レスキュー ストックヤード事務局長を経て2012年より現職。市民参加型の防災まちづくり、災害ボランティア等に関する研究に従事。震災がつなぐ全国ネットワーク共同代表。近著は、松田曜子:災害を乗り越えるーボランティアを通してー in 地域のレジリアンスー大災害の記憶に学ぶ(香坂玲 編), pp.34-50,清水弘文堂書房, 2012.05。